ブドウ「あづましずく」の異常成熟果の発生要因

福島県総合センター果樹研究所　栽培科

1　部門名

果樹－ブドウ－栽培

2　担当者

桑名篤・川口悦史・志村浩雄・額田光彦・斎藤祐一・安達義輝

3　要旨

県オリジナルブドウ品種「あづましずく」における異常成熟果の発生は、ジベレリン溶液に 0.5%硫酸マンガンを加用することで低減できることから、マンガン欠乏によるものと考えられる。

(1) 異常成熟果の症状は①酸が低下しない、②糖度が上がらない、③着色が悪い、④軟化した果粒がみられるなどで、成熟期を迎えても食味が劣るのが特徴である(図 1)。

(2) ジベレリン溶液に、0.5%の硫酸マンガンを加用して処理することで、異常成熟果の発生率は 10%未満となり、加用しない場合と比較して大幅に低減し、1 房あたりの発生粒数も少なくなる(図 2)。このことから、異常成熟果の発生要因は、マンガン欠乏によるものと推察される。

(3) 硫酸マンガンを加用したジベレリン溶液処理の約 1 週間後に、果梗部が黒変する症状が見られるが、収穫期にはほとんど目立たなくなり、商品性には問題がない(図 3)。

(4) 硫酸マンガン処理による果実品質の低下や障害果発生は確認されない。

(5) 単年度の結果であるため、継続調査とする。

図 1 「あづましずく」の異常成熟果
（左:異常成熟果、右:正常果）

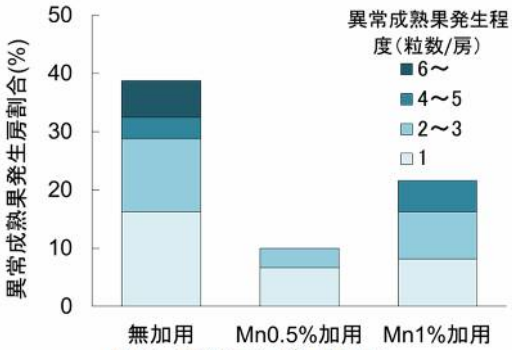

図 2 硫酸マンガン処理と
異常成熟果の発生

図 3 硫酸マンガン処理後に
発生した果梗部の黒変

4　成果を得た課題名

(1) 研究期間　平成 27 年度

(2) 研究課題名　ブドウ「あづましずく」の安定生産技術の確立

(3) 参考となる成果の区分　（発展見込）

5　主な参考文献・資料